



点字の 触読指導

北海道帯広盲学校

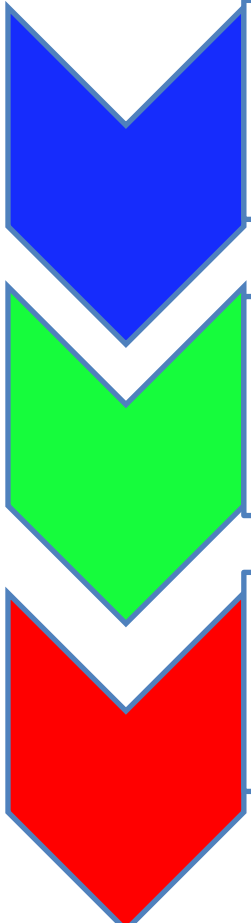
平成23年6月30日(木)

北海道文教大学 鈴木重男

視覚障害教育の基本

視覚障害ゆえの困難さ

視覚情報が情報の80%を占める

- 
- 環境把握の制限
 - 経験の範囲と種類の制限
 - 自由な行動の制限

教師による自立への支援が必要

自立への支援5原則

☆個人差への対応 → 長所を生かす

☆具体的な指示を工夫 → 起点を明確化

☆全体把握を可能にする工夫 → 構造化

☆支援量を徐々に減らす工夫 → 就労に

☆主体的な活動になるよう工夫 → 自立を

試してみよう

**目をつぶって、
これから
配る点字を
触読して下さい！。**

無意味つづりテスト

は、お、る、つ、て、や、さ、ろ、ま、
ぬ、そ、し、え、の、い、あ、ひ、り、
れ、こ、み、と、た、ら、ふ、め、ほ、
わ、な、ん、よ、け、む、ゆ、す、に、
を、ね、せ、う、も、き、へ、く、か、
ち、だ、び、が、じ、ず、べ、ぐ、ぜ、
ど、ば、ご、ざ、ぶ、ぎ、づ、で、ぼ、
げ、ぞ、ば、ぴ、ぺ、ぷ、きゃ、にゅ、
ちょ

目 次

1 学習指導要領と指導観

2 帯盲スタンダードの創設

- 帯盲スタンダード① 運指姿勢と補助の仕方
- 帯盲スタンダード② 点字を指導する時期
- 帯盲スタンダード③ 点字の初期指導
- 帯盲スタンダード④ 触読姿勢と両手読み
- 帯盲スタンダード⑤ 点字指導は普通点字を用いる
- 帯盲スタンダード⑥ 点字の書きはパーキンスフレーラーで

3 触察教材の工夫

1 学習指導要領と指導観

特別支援学校学習指導要領

第2章各教科 第1節小学部 第11(2)

(2) 児童の視覚障害の状態等に応じて、点字又は普通の文字の読み書きを系統的に指導し、習熟させること。なお、点字を常用して学習する児童に対しても、漢字・漢語の理解を促すため、児童の発達の段階等に応じて適切な指導が行われるようにすること。

特別支援学校学習指導要領解説～総則等編～

第2視覚障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校 2 点字等の読み書きの指導（第2章第1節第1款の1(2)）

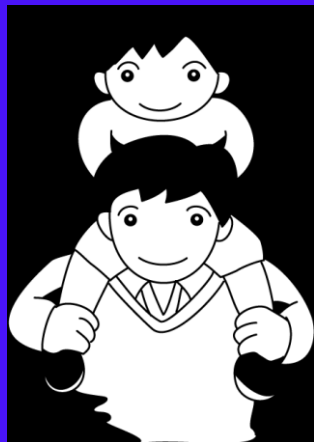
視覚障害のある児童生徒が読み書きの手段として、点字と普通の文字のどちらを常用するかということは大切な問題である。原則的には、視覚障害についての医学的、教育的な観点から総合的に判断することになるが、視力や視野の程度、眼疾患の進行状態、学習の効率性、本人の希望や意欲などが重要な判断基準となる。

点字を常用して学習する児童生徒に対しては、点字の表記法を踏まえた系統的な指導が必要である。また、点字の読み書きを速くする指導も大切であり、特に読みについては、内容を読み取りながら、その先を予測して読み進む方法を併せて指導すると効果的である。

盲学校教師の 望ましい指導観

- 必ず読めるようにする指導観
- 今できることから広げる指導観
- 親と共に喜びの中で行う指導観
- 正しい姿勢に留意する指導観

帯盲の点字指導
ほめて、認めて、支える



君の良さだね！

信頼関係の深化



頑張って！

自己評価が
高まる

好ましい行動

やればできる！

自尊心が
高まる

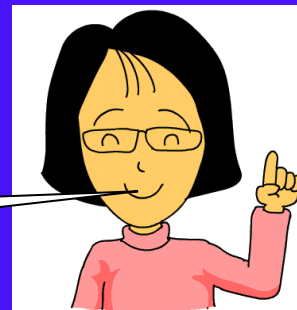
聞き入れる
姿勢

希望

努力

やる気

さすがね！



僕

頑張る！

2 帯盲スタンダードの創設

帯盲スタンダードの創設

同校元教師 樋口実先生の 点字指導を基盤とする。

先ず、手指の機能を高めるように心掛けます。物を握る、握った物を振ることから始まり、触察を楽しむまで危険がない物ならどんどん与えて、自由に触らせてやります。視力がない分、それを補う為の介助や工夫が必要になってきます。

子どもは、形、材質、音の出るもの出ないもの、音の出し方、色々なことを、体験を通して覚えていきます。

『手指の働きは幼児期の脳の発達につながる』と言われるほどです。幼児期は、興味や行動力が盛んなので、また記憶力も最高です。

また、この時期の恐怖や悪い癖はなかなかとれませんので、嫌がることを強制しないで、子どもに対して、根気よく楽しくやるようにこころがけます。

帯盲スタンダード①

運指姿勢と補助の仕方

触察は、出来るだけ両手で、全面を触るよう、子どもの手をとって、基本的に教えます。その姿勢は、両脇を閉めて、背中を伸ばし、机に正対して、手指を柔らかくさせながら、説明を加えて触察させていきます。この時は、子どもの指をとって指導をしますが、強い力や無理やり、触察させる物に押つけることは避けます。

指の使い方は、人指し指と中指を中心に自然に体得させていきます。あくまでも楽しく、誉めながら指導したいものです。この時、できれば、「遊びの記録」等をつけておくと、その子の成長や遊びの傾向、次に与える玩具等の種類を教材として見通せることがあります。



帯盲スタンダード②

点字を指導する時期

視覚に障害のない普通児は、1歳になるかならないうちから、絵や文字に興味を示し、2歳になると文字に馴染んで、絵本読みをせがんだり、テレビに出てくる文字にも興味を示します。また、同時に書こうとする意欲もでてきます。親は、それにしたがって、ペンや紙など、それなりの物を与えます。

したがって、視覚に障害のある子どもにもそれなりの機会を与えれば、それなりの経過を経て、点字に馴染んでいくと思います。

点字を与える時期は、その子に応じたものであればよいと思います。視覚に障害のある幼児には、最初はいくまでも点字があることを教えることから始めます。最初は、軽く点字に触らせる程度から徐々に始めなくてはいけません。しかし、『幼稚部から点字を教えるべきでない。』という意見があります。現在の盲学校は、乳幼児相談から3歳児保育へと、保護者と接触する機会や時間を多く持つことができます。この時を活用して、先ず、保護者に、点字と正しい点字触読の指導方法を知ってもらうことが大事になります。

遠城寺式・乳幼児分析的発達検査表(九大小児科改訂版)

3.0～ 3.4	でんぐり返し をする	ボタンをはめ る	顔をひとりで洗 う	「こうしてい い？」と許可を 求める	同年齢の子ども と会話ができる	高い・低いがわか る
2.9～ 3.0	片足で2・3 秒立つ	はさみを使っ て紙を切る	上着を自分で脱 ぐ	ままごとで役を 演じる事ができ る	二語文の復唱 (赤い風船、お いしいお菓子)	赤・青・黄・緑が わかる (4/4)
2.6～ 2.9	立ったままで くるっとまわ る	真似て丸をか く	靴をひとりで履 く	年下の子どもの 世話をやきたが る	二数詞の復唱 (5-8 6-2 3-9)	長い・短いがわか る
2.3～ 2.6	足を交互に出 して階段をあ がる	真似て直線を 引く	こぼさないでひ とりで食べる	友達とけんかを すると言いつけ にくる	自分の姓名を言 う	大きい・小さいが わかる
2.0～ 2.3	両足でぴょん ぴょん跳ぶ	鉄棒などで両 手でぶらさが る	ひとりでパンツ を脱ぐ	電話ごっこをす る	「きれいね」 「おいしいね」 などの表現がで きる	鼻・髪・歯舌・へ そ・爪を指示する (4/6)
1.8～ 2.0	ボールを前に 蹴る	積み木を横に 2つ以上なら べる	排尿を予告する	親から離れて遊 ぶ	二語文を話す(「 ワンワンきた」 等)	「もうひとつ」 「もうすこし」が わかる

帯盲スタンダード③

点字の初期指導

点字の触読指導は、視覚に障害のない子どもたちへの墨字指導と同じように、読みやすい点字から入るか、絵本などの楽しい単語から入るか、子どもの名前から入るかは、その子の興味・関心や手持ちの教材によって自由に決めてよいと思います。点字触読を導入する時は、楽しくあくまでも強制しないことが重要です。

また、点字を触読する人差し指は、左手読みから入るのが良いと思います。それは、最初から、両手読みを強制すると、単語や一字読みの段階では、どうしても、点字シートを先行する右手の人差し指だけで読んでしまい、小さなころから、右手主導の点字触読の形が定着してしまうからです。

したがって、最初から左手の人差し指での触読を指導して、次に左手読みが安定してから、両手読みに入ったほうが混乱も少ないと思います。

難易度1 (I-型)

い こ り に け た し も
 || || || || || || || ||

い：タテ線2本
 り：左が短いタテ線
 右が長いタテ線
 け：左にタテ線、右に十字

し：左下のカギ線

こ：ヨコ線2本
 に：左にタテ線
 右に「こ」のヨコ線2本
 た：左に十字
 右下に「こ」のヨコ線2本
 も：「し」の左下のカギ線に「こ」のヨコ線2本

難易度2 (V/型)

く へ て そ さ き ん え
 < ^ 7 7 け け 厶 乙

く：「し」の左下のカギ線を90度時計回りに回転

て：「へ」を90度時計回りに回転

さ：「け」の左のタテ棒を下に短く書く

ん：「し」のタテ棒を右上から左下に斜めに書く

へ：「く」を90度時計回りに回転

そ：小さい「て」に続けて大きな「て」を書く

き：「け」の右の十字のヨコ棒は「こ」、左のタテ棒は「さ」と同じ位置に書く

え：「こ」に続けて「ん」を書く

難易度3 (コ 型)

っ う か ち ら や と せ
 コ う か ち ら や と せ

つ：「て」の下にヨコ線
 か：「つ」と「い」の組合せ。「い」の左のタテ線を「つ」の上のヨコ線に買いて書く。「い」の右のタテ線は「つ」から右に離して書く

ら：短いタテ線を書く。少し離してタテ線に続けて「つ」を書く

と：「つ」の鏡文字を書く。上ヨコ線の上にタテ線を置くように書く。

う：「こ」に続けて「つ」を書く
 ち：十字に続けて「つ」を書く

や：「つ」と「い」の組合せ。「い」の左のタテ線を長く、右のタテ線は短く、「つ」の上ヨコ線に買いて書く

せ：「し」と「十字」の組合せ。「し」のタテ線に「十字」のヨコ線を買いて書く。

難易度4 (よ 型)

よ ま は ほ す な む み
 よ ま は ほ す な む み

「よ」のヨコ線の無い形を4「基本形」とする。

よ：基本形タテ線上の右に短いヨコ線

は：「け」に続けて基本形

す：基本形の丸め終末部を下に長く伸ばす

む：「す」の丸め終末部を右に伸ばす。伸ばした線の最終部の上に「ちょん」

ま：「こ」に基本形

は：「は」の上のヨコ線は「こ」

な：左に「十字」、右はタテ「ちょん」、離して下に基本形

み：短いヨコ線を書き、引き続いて基本形を書いて、最終線を右に伸ばして、「十字」

難易度5 (O 型)

の め ぬ あ お ゆ
 の め ぬ あ お ゆ

「の」を5「基本形」とする。

の：基本形

ぬ：「め」に続けて難易度4基本形

お：「十字」に続けて基本形、右上に離して「ちょん」

め：タテ線に基本形

あ：「十字」に基本形

ゆ：短いタテ線に続いて「つ」を書いて長いタテ線

難易度6 (U n型)

ろ る ひ わ れ ね ふ を
 ろ る ひ わ れ ね ふ を

ろ：小さな「て」に続けて「つ」

ひ：「て」に続けて縦の「つ」、上を右に伸ばす

れ：「わ」の終末部を右に伸ばす

ふ：「ろ」の左右下に「ちょん」「ちょん」

る：「ろ」に続けて難易度4基本形

わ：タテ線と「ろ」の組合せ

ね：「わ」に続けて難易度4基本形

を：「ち」と「と」の組合せ

図2-19 ひらがなの6段階難易度分類

帯盲スタンダード④

触読姿勢と両手読み

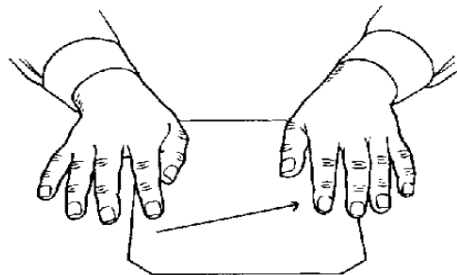
点字を触読する時の姿勢の留意点は、点字の触読時に両脇を閉めるようにして、両手の触読指を、左から右に円滑に動かすことが基本とすることです。

このため、脇を閉めて、机に正対して座る姿勢を保持し続けることを身に付けさせます。この姿勢を保持することにより、両手の間隔が何時も同じくらいになり、指先が常に前方を向くことになります。同時に、机の高さも肘の高さと同じくらいにしてやることも大事です。

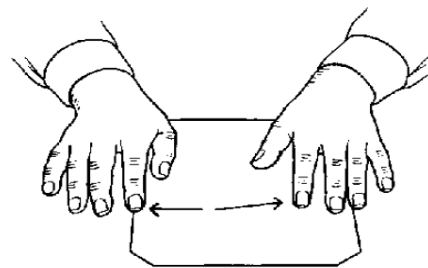
両手読みの最初では、右手を邪魔にしがちですが、次第に慣れて右手でも点字が読めるようになります。両手での触読が慣れてきたら、行の初めを左手が触読し、行の終わりを右手が触読するようにします。そのことにより、今触読している点字の行の内容と、次行に打たれている点字の内容との繋がりが出来て、速く点字が読めるようになりますし、左手で点字を読み、右手で点字を打つ「転写」の時もあまり苦にせずに進めるようになります。



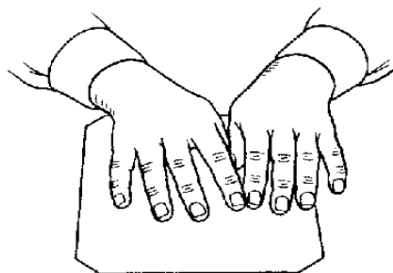
A



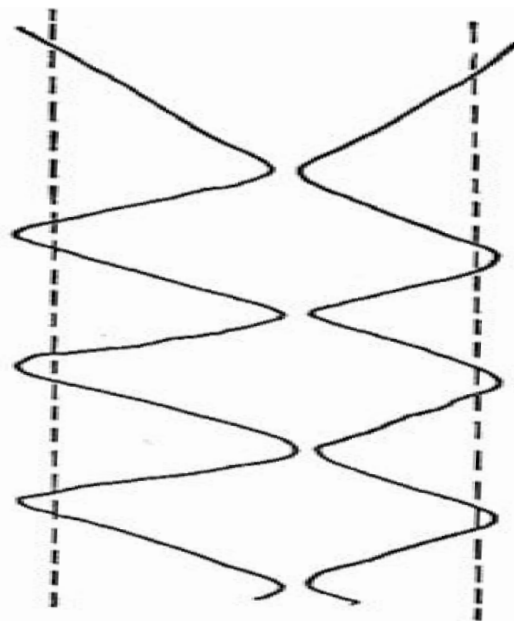
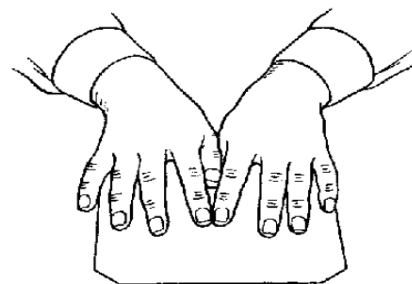
C



B



D



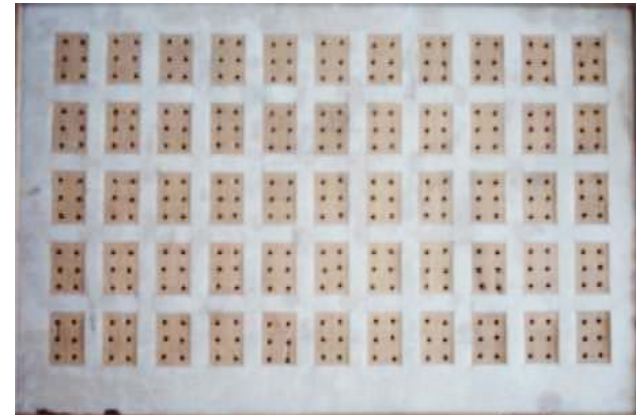
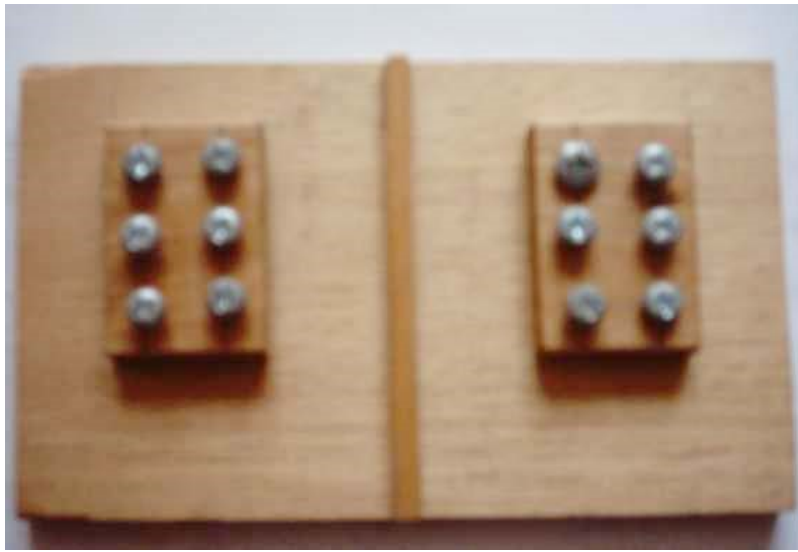
帯盲スタンダード⑤

点字指導は普通点字を用いる

点字を点の配置で構成するリベットや点字表示器で点字する教師がいますが、この場合、読みが安定してからでないと、かえって点を指先で「カッチャキ読み」して、点の位置を確認するなどしたり、点字嫌いを作りやすいので十分な配慮が必要です。

特に、知的障害を併せ有する視覚障害児に対して、大型点字から入る教師がいますが、これは無駄のことが多く、かえって混乱を起こし、普通サイズの点字に慣れるまでに時間がかかることになったり、下手をすると点字嫌いになってしまう恐れさえあります。

このような子どもたちは、点字の点の大きさを徐々に小さくするとしても、それぞれの段階の点の大小を理解することができなかったり、指でそのことを判別すること自体が抵抗になります。教師には、点字は墨字と違って、字の大小がないことを、特に念頭においた指導に留意してほしいと思います。



帯盲スタンダード⑥

点字の書きはパーキンスブレイラーで

点字は読みが安定してから、書くことが普通であると思いますが、点字を書くことに興味を持つようであれば、指の訓練を兼ねて、楽しく書くことをさせてもよいのではないかと思います。

現在は、点字タイプライターが普及して、パーキンスブレイラーから書くことを入ることが多くなっています。パーキンスブレイラーは打つ時の音も心地よく、また丈夫で幼児でも楽しく導入することができます。

点字器(点字盤)を幼児期に与える時は、次のことに注意してください。

- *点字を意識して、書かせるのは点字読みが安定してからにする。

- *用紙は、力に合せて薄いものから使用する。

- *点筆の針の長さを調節する。

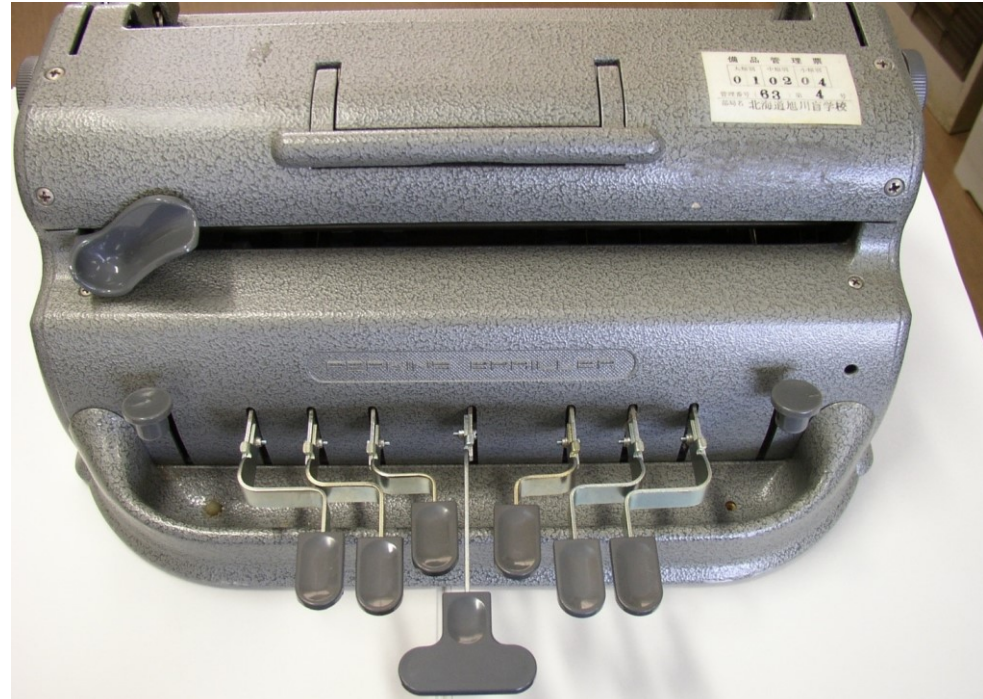
- *点筆を握りに合った大きさの物にする。

- *両手指の運び方を安定させる。(2.と5の点が安定するように)

盲幼児のパーキンスブレーラー



小型パーキンスブレーラー

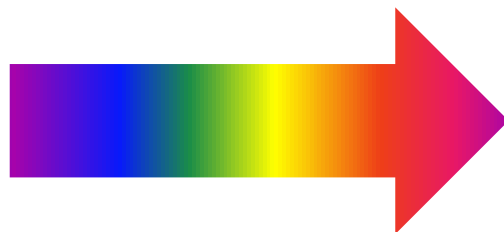


普通のパーキンスブレーラーに
片手打ちアタッチメントを装着



3 触察教材の工夫

具体物



触察図
点図

a



b



視覚障害の困難例 直接触れたい、触察能力を超えるもの

直接触れることができないもの

太陽、月、雲など

大きすぎて、そのものに触察できないもの

山脈、川、大建築物など

小さすぎて、そのものに触察できないもの

ありなどの小さなもの

柔らかすぎて、そのものに触察できないもの

蝶、蜘蛛の糸など

動いていて、そのものに触察できないもの

走っている汽車や自動車

特定の状況にあり、そのものに触察できないもの

燃焼中の木、ダムの放水など



ミニチュア・模型、平面化・動作化等の教材を工夫



岩元悦郎先生とヒデ先生

1937年4月

民家を借り受けて生徒を募集。

7月 帯広盲啞院を開設。

悦郎先生は院長。

ヒデ先生は聾生指導と寄宿生指導

1939年4月

盲生初等部に1名入学。

1970年当時、札幌ライトハウス(点字・テープ図書の作成・配送、各種視覚障害機器の販売)を、札幌北光キリスト教会の人たちと御夫妻で運営していた。私は、札幌盲学校のそばにあったので、たびたびおじゃましていた。その時、「米と味噌が無くなった時は、悦郎先生自ら「あんま笛」を吹き、流しあんまをして、帯広盲啞院の子どもたちを養っていた。」と、お聞きした。

北海道帯広盲学校を道東の視覚障害児教育の拠点として、その機能を拡大させてください。